

- ★JFMA FM秋の夜学校2015 特別講演会…………… P.1
「今、決断のとき! 大学経営におけるキャンパス戦略を考える」より
実践女子大学理事長 井原 徹氏
- ★大学ブランド Vol.3…………… P.4
千葉大学の「ノンメタボーク」が、ヘルシーさと肉のうま味で、
注目され話題
- ★News 丸太燃料流通トータルビジネス…………… P.6
- ★Topics 大学で行なわれているFM教育の現在…………… P.7
- ★レポート1…………… P.8
2015年新たに先進的教育環境の充実、新キャンパスを整備
東洋大学京北中学高等学校
理事・校長インタビュー…………… P.10
新たな出発に際し、建学の精神を再度認識・踏襲した教育を推進
学校法人東洋大学 理事
東洋大学京北中学高等学校 校長 石坂康倫氏
- ★低圧電力の切替えにあたって知っておきたいポイント… P.12

Campus Management Report21

No.6

キャンパス マネジメント リポート 21

JFMA FM
秋の夜学校
2015
特別講演会

「今、決断のとき! 大学経営におけるキャンパス戦略を考える」より

— 講演「キャンパス戦略【都心回帰の背景～もう一つの意味】」講演録ダイジェスト —

平成26年4月、実践女子大学は渋谷キャンパスにおよそ30年ぶりとなる回帰を果たし、渋谷と日野の2校地展開を行なった。その背景と経過、そして大学経営との関わりについて、学校法人実践女子学園の井原徹理事長が、昨年11月30日のJFMA FM秋の夜学校2015(公益社団法人 日本ファシリティマネジメント協会主催)にて講演。自らの決断と志について170名余の参加者を前に振り返った。大学のこれからの方針も含めて語ってくれた80分を、ダイジェストでお届けしたい。



実践女子大学理事長
井原 徹氏

決断のときを振り返る

今日の演題の一番上、照れてしまうのですが「今、決断のとき」。もう3年も4年も前の話なのですが、正直に言って私どももよくやりました。何か、遠い昔の話のようですが、計画を練りに練って、その度にいろいろなことがあり、説明会だけでもいろいろなところで10回くらいやったと思います。やってみて、今は間違いなかったと思っていますし、やっていなかったら今頃どうなっていたかとも思うくらいです。渋谷の校舎ができて最初に入ったとき、私は正直やりすぎた、お金をかけすぎたと思いました。建設会社はプロポーザルで選びましたが、このプランは高い方で、一番安いプランとは20億円くらい違っていたと思います。ですから私も理事長として、キャンパス計画室長の高田先生に「もうちょっと違う選択はな

いですか」と談判したけれども、いかにこの案が本学の望んでいるものに忠実かつプラスアルファがあるか、理路整然と説明されました。確かにお願いしてよかったと思います。学生の評価もとても高いです。ただ、経営の観点からはかなり高ぶれたことも間違いありません。

実践女子学園の学祖・下田歌子は、明治という男尊女卑が激しい時代、女性の地位向上を信念に、女性教育、しかも庶民教育に力を尽くした一般子女教育の先駆者であります。今の言葉でいうと、男女共同参画社会推進の第一人者といえます。その下田歌子がつくった学校は、もともとこの渋谷の地に、中学・高校・短大・大学と全てオールインワンでありました。しかしながら、高等教育の拡大・拡張路線として学生数を増やすことが各大学でなされたときに、大学・短大が渋谷から日野(大坂上・神明)に移りま

した。本学園は今年で116年、2019年には創立120周年を迎えます。伝統と実績があることははばからずに申し上げたいと思いますが、その栄光が、だんだんと陰りを生じてきました。受験生の数に減少がかかり、偏差値は下がり気味になっていた2007年に、私は縁あって本学に参りましたが、それ以前からずっと渋谷に行く、行かないという議論がありました。その10年くらい前から議論されていたと聞いています。

最初は反対だった2校地展開

なぜ、実現できなかったのか。お金の問題です。そして、大学が都心回帰するのは何のためか。大学関係者はいわなくても分かると思いますが、受験生が来ないのです。東京以外の方が東京に憧れるのは、基本的に23区とその周辺までです。日